

●山形市医師会在宅医療・介護連携室ポピー 事業計画と実績評価

平成29年度

(目的) 在宅医療・介護の連携推進業務は、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるように、在宅医療と介護サービスを一体的に提供するために、医療機関と介護サービス事業者などの関係者の連携を推進する

事業項目(仕様書~)	主担当	H29年度計画	実績	評価と次年度イメージ
(1) 在宅医療・介護関係者の研修	徳田	<ul style="list-style-type: none"> 研修、ミニ講座、出張勉強会、課題検討会、交流会 詳細計画別紙 大研修は共催も検討： 	<ul style="list-style-type: none"> 研修・ミニ講座・出張勉強会・交流会・懇親会 計43テーマ 参加者延べ≒1350人↑(下記含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 評) 3年間当室が行う研修内容について模索しながらの実施であったが次は実績評価を元に、優先度勘案もしながら研修を体系化していく。 次) 従来の研修項目を当室の役割に照らしコンパクト化し、その分ニーズの高い精神、がん、入退院支援領域研修を重点化する。
		<ul style="list-style-type: none"> 退院支援ルール地域版フロー図普及の為の研修 	<ul style="list-style-type: none"> むらねっとと合同会 ・医療福祉研修会でのパネルD 市合同説明会 出張勉強会にて、県立、国立、済生館、地域包括CM研修会 	<ul style="list-style-type: none"> 評) チーム名にルールと入っていることより、フローがルールととられて混乱している面もある。ガイドラインとしての目的周知が必要。 次) フローの視点を研修枠組みで体系的に学べるようにする
(2) 相談窓口	徳田 鹿野	<ul style="list-style-type: none"> 連携室ならではの相談窓口として普及方法検討 パンフレット配置願いを兼ね関係機関訪問 住民への広報 	<ul style="list-style-type: none"> 相談対応件数1月末までに111件(項目別延べ156件) 医療機関23・包括19・関係機関6・居宅8・サ事業所10・住民27・他17 特に主治医変更や、在宅看取りも視野に入れた意思決定支援に携わる地域包括支援センターのケースにコンサルテーションや協働を依頼されることが増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 評) 繋ぐべき時は繋ぎつつ、ワンストップで丁寧な対応に心がけ、少しずつ、問合せレベルから相談レベルの件数が増えてきた。 次) 包括を中心とした地域多職種チームからの、医療ニーズや意思決定支援に関する相談へのコンサル機能を強化する
		<ul style="list-style-type: none"> 医療サービス情報検索システム更新作業 3市医療機関相談窓口パンフレットについて 他の情報集約について検討 (Sステイ空き情報や医療重度者対応施設など) ネットワークマップの作成 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関の連携目的別窓を一覧をシステムに追加 入院時情報届け先を確認し、パンフレット更新 病院のレスパイト機能・・・呼吸器装着を含む医療重度者に対応できる3病院確認できている(国立、得州会、済生HP) 未着手 地域で医療・保健等につき講師担当できる人材資源の探索 市立病院済生館認定看護師リストを包括へ情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> 評) どのくらい活用されているかの検証は未実施 次) 医情報検索Sと3市医療機関相談窓口Pの更新と周知(市と協働) 評) 当室だからこそ行うべき資源把握の内容についての検討未実施 次) 上記の検討 評・次) 必要性について検討 評・次) 全体的に具体的内容につき検討
(4) 地域住民への普及啓発	徳田	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターの協力を得て住民との接点を持つ(住民サロンや連絡会へ参加させてもらう) 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員、町内会長等が出席する会での広報4件 住民サロンでの広報6件 ・住民サロンでの講話担当1件 	<ul style="list-style-type: none"> 評) 包括の協力で住民と接点を持ちポピーの存在をアピールできた。 次) 住民対象出張講座の企画・開催。 民生委員児童委員連絡協議会での周知・町内会回覧等、市と協力し手配。スーパーやコンビニ、薬局へのチラシ設置。
		<ul style="list-style-type: none"> 退院支援ルール検討チーム運営継続(当室事務局) 	<ul style="list-style-type: none"> フロー完成させ、9月合同説明会実施、山形市退院支援フローの普及活動として山形市とともに市内病院看護部長+連携室担当者を訪問し、12月までに12病院訪問終了 居宅訪問継続中(フローの活用聴き取り) 現時点で6ヶ所 	<ul style="list-style-type: none"> 評) 検討チームがチームワーク良く、フロー完成までに協力できた。チームの円滑な運営に事務局機能を果たせたと考えている。 次) フローがルールと捉えられ混乱がある点に付き、ルールではなく、退院支援スキルアップのためのガイドラインであることを根気強く周知していく。視点を深める研修枠組みを作る。
(5) 在宅医療・介護の課題抽出と対応の協議	徳田	<ul style="list-style-type: none"> 計画的ヒアリング 地域関係職種、医師等：HPページにインタビューアップ 	<ul style="list-style-type: none"> 医師、居宅、包括、連携室等機会あるごとに聴き取り HP医師インタビュー近日アップ(大島医師) 	<ul style="list-style-type: none"> 評) 計画的ヒアリングというより、機会を上手く使ってヒアリングを行い、当室を身近に感じてもらうことにつながった。 次) その時々タイムリーな聞き取りも重要なので、計画性にこだわらず、今後も柔軟に地域の声をヒアリングしていく。
		<ul style="list-style-type: none"> 医療・介護連携ツール(MCS)ポピーねっとやまがた普及の為の説明会、勉強会 	<ul style="list-style-type: none"> ポピーねっとやまがた 登録受付 31事業所、ユーザー登録98名 ポピーねっとやまがたの出張勉強会7件 登録調整等への訪問対応1(3月22日現在) 	<ul style="list-style-type: none"> 評) 開始より1年経過。開始直後のフォローを丁寧にし活用され始めた。 次) 事務手続きの簡素化。ICTを活用した連携についての周知・広報。患者が参加するタイムラインの展開。
(7) その他必用な事業	徳田	<ul style="list-style-type: none"> 運営会議(5, 7, 9, 11, 1, 3月) 連携会議等参加 	<ul style="list-style-type: none"> 3月予定(今年度評価と次年度計画) 村山保健所在宅医療専門部会 ・地域ケア調整会議・むらねっと会議 関係機関(包括、おれんじ等)連絡会、情報交換会など数ヶ所 	<ul style="list-style-type: none"> 評) 各種会議において、当室からの意見や情報提供ができた。 次) 医療・介護連携室としての活動実績や活動による効果を機会毎に周知していく。
		<ul style="list-style-type: none"> 職員資質向上のための研修参加 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅医療・介護連携推進事業プラン作成強化セミナー 他 計10ヶ所↑ 	<ul style="list-style-type: none"> 評) 研修内容を当室の活動に反映、活かすことができた。 次) 事業内の許容範囲で、研修参加し事業に活かしていく
		<ul style="list-style-type: none"> 講師担当 	<ul style="list-style-type: none"> 出張勉強会 ・看護協会 ・CM実務研修 ・大阪府福祉部 	<ul style="list-style-type: none"> 評) ホームページから当室の活動が目にとまり、他地域で報告できる機会があり、やりがいにつながった。自分達の活動を振り返る機会にもなるので、今後も事業の範囲内で引き受けていく。
		<ul style="list-style-type: none"> 他機関研修の集約 	<ul style="list-style-type: none"> 他機関も含めホームページ新着欄または研修カレンダーにて広報継続 医療・介護に重要なものは研修広報メルアドからも広報 	<ul style="list-style-type: none"> 評) 他機関から広報活用場として認識されて来た 次) 内容により、どこまで広報するか判断していく
		<ul style="list-style-type: none"> ホームページからの情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的にブログ更新中 	<ul style="list-style-type: none"> 評) 「時々見えています」との声が聞かれている 次) 当室の活動周知と、地域への有用な情報提供の充実を図る

●医療・介護連携の4つの局面 1.入退院支援 2.日常の療養支援 3.急変時の対応 4.在宅看取り